

地球温暖化対策実施状況報告書

平成23年 7月 20日

（報告先）
横浜市長

住所 横浜市中区豊浦町2番地3

氏名 高田工業株式会社
取締役社長 重村 洋二

（法人の場合は、名称及び代表者の氏名）

横浜市長生活環境の保全等に関する条例（以下「条例」という。）第144条第2項の規定により、次のとおり報告します。

1 地球温暖化対策事業者等の概要

事業者の氏名又は名称 （代表者の氏名）	高田工業株式会社 取締役社長 重村 洋二				
事業者の主たる 事業所の所在地	神奈川県横浜市中区豊浦町2番地3				
主たる事業の業種	大分類	E 製造業			
	中分類	3 1 輸送用機械器具製造業			
該当する 事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例施行規則（以下「規則」という。）第89条第1項第1号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第2号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第3号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	地球温暖化対策事業者以外の事業者（任意提出事業者）			
	原油換算エネルギー使用量	5,996	k l	自動車の台数	台

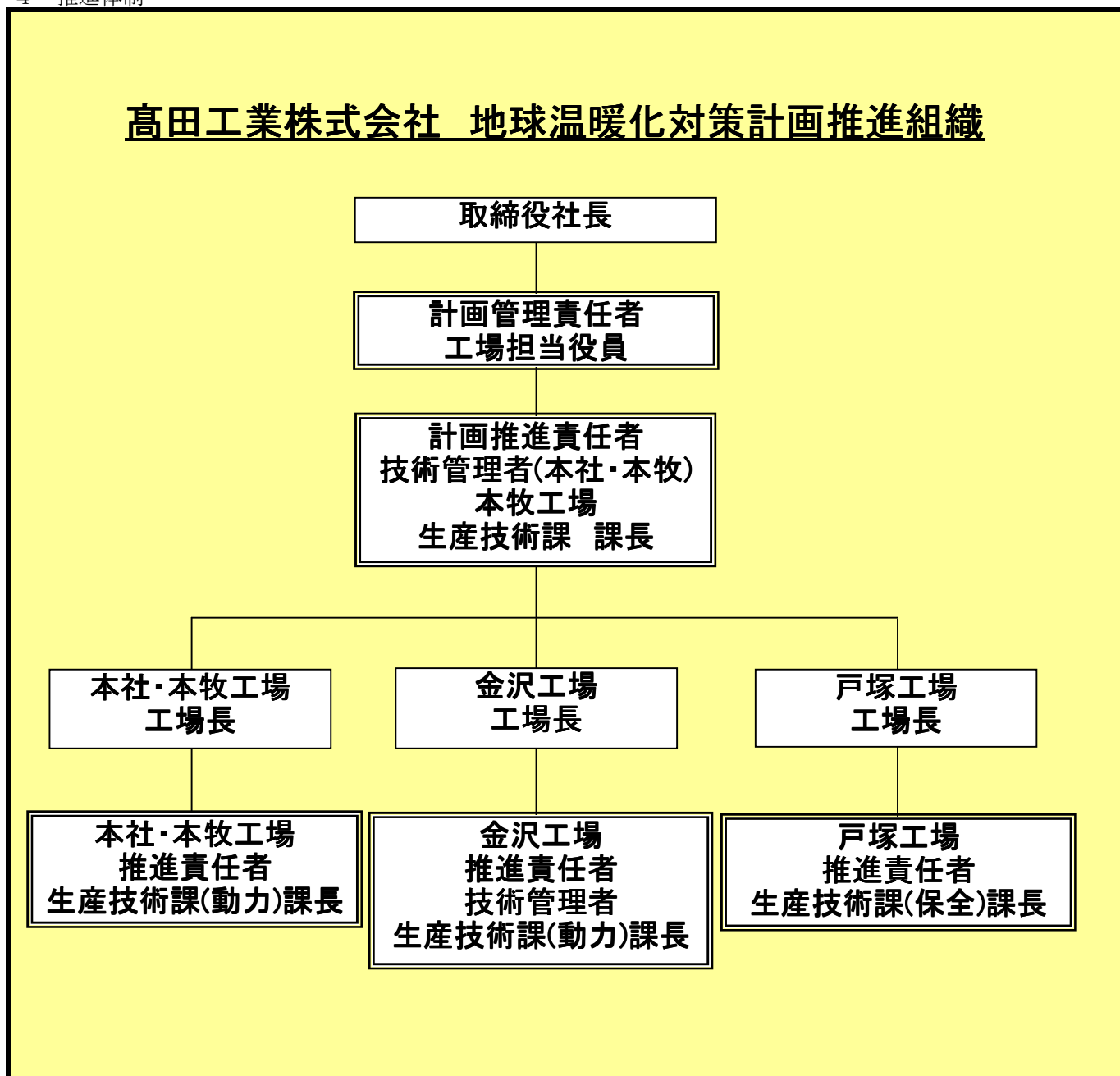
2 計画期間及び実施年度

計画期間	平成22年度	～	平成24年度	実施年度	平成22年度
------	--------	---	--------	------	--------

3 温室効果ガスの排出の抑制等を図るための基本方針

温室効果ガスの排出抑制として、ISO14001 環境マネジメントシステムに準じる環境経営により省資源、省エネルギーと地球温暖化防止に重点を置き、エネルギー使用量の実態把握、削減目標の設定を実施し技術的・経済的に可能な範囲で継続的改善に努める。 ①更新の対象となる主要なエネルギー使用設備 ポンプ、ファン、コンプレッサ、溶接電源等 ②上記設備を選択した理由 主に塗装工場やパワーゾーン、板金工場で使用しており、台数も多く稼働時間の長いので更新や制御付加によりエネルギーならびCO ₂ 削減効果が大きい。 ③設備更新スケジュール 平成22年度から年度毎に設備更新計画を策定し段階的に更新を進める。

4 推進体制



5 公表の方法等

ホームページ	アドレス	http://www.takada-kogyo.jp
窓口で閲覧	閲覧場所	
	所在地	
	閲覧可能時間	
冊子	冊子名	
	入手方法	
その他		

6の1 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第1号及び第2号該当事業者）

基準年度 (平成21年度)	基準排出量	10,548	t-CO ₂			基準原単位		t-CO ₂ /	
	調整後	9,547	t-CO ₂			目標原単位		t-CO ₂ /	
目標年度 (平成24年度)	目標排出量	11,649	t-CO ₂	削減率	▲ 10.5 %		削減率	3.0 %	
排出の抑制に係る目標の設定の考え方	<p>エネルギーの使用量と温室効果ガス排出量は生産台数または売上げと密接な関係にある。平成24年度は基準年に対し生産数量の増加とそれに伴う温室効果ガス排出量の増加が見込まれる。</p> <p>従って工場毎の特性に合わせ生産台数千台当りまたは売上げ十億円当りの排出量を原単位におき、省エネ法に於けるエネルギー使用量削減目標である1%/年に準じ平成24年度温室効果ガスの排出抑制目標を原単位の平成21年度比3.0%削減とした。設備更新等はポンプやファン等の台数が多く稼働時間が長い設備を中心に、更新または現行設備への制御付加を行い排出量削減を進める。</p>								
事業者全体としての目標等									
第一年度 (平成22年度)	排出量	10,999	t-CO ₂	削減率	▲ 4.3 %	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後	9,864	t-CO ₂	削減率	▲ 3.4 %		削減率	4.7 %	
目標等の達成状況及び説明	<p>基準年度に対しての総排出量は生産量増加に伴い▲0.9%増加しているが、排出原単位での削減率は4.7%で目標達成。</p> <p>各工場別の排出原単位削減率実績は、3工場中の本社・本牧工場、戸塚工場は第一年度目標の基準年度から1%を大幅に上回る結果で達成出来ており、売上げの低下により目標未達成となった金沢工場についても、今後の売上げ予測と各種対策の実施により第二年度には目標が達成出来る見込み。（各工場の排出量、目標の達成状況詳細は個別票参照）</p>								
第二年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	100.0 %	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後		t-CO ₂	削減率	100.0 %		削減率	%	
目標等の達成状況及び説明									
第三年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	100.0 %	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後		t-CO ₂	削減率	100.0 %		削減率	%	
目標等の達成状況及び説明									
計画期間全体の排出状況に関する説明									

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

7 事業所等における温室効果ガスの排出状況

事業所等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	事業所等の 数(所)	排出量の 合計(t-CO ₂)	事業所等の 数(所)	排出量の 合計(t-CO ₂)	事業所等の 数(所)	排出量の 合計(t-CO ₂)	事業所等の 数(所)	排出量の 合計(t-CO ₂)
3,000k l 以上								
1,500k l 以上 3,000k l 未満	2	8,670	2	8,837				
500k l 以上 1,500k l 未満	1	1,878	1	2,162				
500k l 未満								
合計	3	10,548	3	10,999				

8 自動車における温室効果ガスの排出状況

自動車の区分	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	台数(台)	排出量の 合計(t-CO ₂)	台数(台)	排出量の 合計(t-CO ₂)	台数(台)	排出量の 合計(t-CO ₂)	台数(台)	排出量の 合計(t-CO ₂)
普通貨物自動車								
小型貨物自動車								
大型バス								
マイクロバス								
乗用自動車								
合計								
低公害かつ低燃費な車の 導入割合(%)		%		%		%		%

9 重点対策の実施状況

		基準年度	第一年度	第二年度	第三年度	備考	
第1号及び第2号該当事業者	1	推進体制の整備	実施中	実施済			平成22年度に実施。(3工場)温暖化対策推進組織(報告書内記載)
	2	主要なエネルギー使用設備の更新等の検討	実施中	実施中			平成24年度までに年度毎に計画・実施(3工場)
	3	機器管理台帳の整備	実施中	実施中			平成24年度までに実施予定(3工場)
	4	照明設備の運用管理	実施中	実施中			平成24年度までに実施予定(3工場)
	5	エネルギー使用量の把握	実施中	実施中			平成24年度までに実施予定(3工場)
	6	各種図面の整備	実施中	実施中			平成24年度までに実施予定(3工場)
	7	外気導入量の適正管理	実施中	非該当			空気環境測定義務が無いため
	8	フィルター等の清掃	実施中	実施中			平成24年度までに実施予定(3工場)
	9	ポンプ、ファン及びブロワーの適正な流量管理	実施中	実施中			平成24年度までに実施予定(3工場)
	10	変圧器の需要率管理、効率管理	実施中	実施中			平成24年度までに実施予定(3工場)
	11	室内温度の適正管理	実施中	実施中			平成24年度までに実施予定(3工場)
	12	地下駐車場の換気管理	非該当	非該当			屋外駐車場の為、換気無し(3工場)
	13	照明設備の高効率化	未実施	未実施			平成24年度までに厚生棟の照明高効率化を計画
	14	事務所機器の待機電力管理	実施中	実施中			平成24年度までに実施予定(3工場)
	15	機器性能管理	未実施	未実施			平成24年度までに実施予定(3工場)
	16	冷凍機の冷水出口温度管理	実施済	実施済			冷凍機3機(2工場)の管理実施中
	17	燃焼設備の空気比管理	実施中	実施中			平成24年度までに実施予定(3工場)
	18	排出ガス温度の管理	実施中	実施中			平成24年度までに実施予定(3工場)
	19	蒸気配管のバルブ等の保温	実施済	実施済			ボイラ11缶(3工場)配管等の保温実施中
	20	工業炉表面の断熱強化	実施中	実施中			平成24年度までに実施予定(3工場)
	21	コンプレッサの吐出圧の適正化	実施済	実施済			コンプレッサ15台(3工場)の吐出圧管理実施中
	22	コンプレッサの吸気管理	未実施	実施中			平成24年度までに実施予定15台(3工場)
第3号該当事業者	23	推進体制の整備					
	24	自動車の適正な使用管理					
	25	エネルギー使用量等に関するデータの管理					
	26	エコドライブ推進体制の整備					
	27	自動車の適正な維持管理					

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

10 再生可能エネルギー利用設備等の導入状況

番号	設備機器の種類	導入年度	性能等	備考
1				
2				
3				
4				
5				

11 クレジット等に関する取組状況

番号	種類	年度	オフセット対象範囲	特定温室効果ガス換算量	備考
1	電気の使用	平成22年度	本社・本牧、金沢、戸塚	1002 t-CO2	東京電力㈱
2	高効率コジェネの利用	平成22年度	本社・本牧、金沢、戸塚	132 t-CO2	総合エネルギー効率57.2% 省エネ率18.5%
3					
4					
5					

12 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度までの対策	・廃棄物の排出量の把握及び削減に係る対策
計画期間内に実施する対策	IS014001推進における廃棄物削減対策として、ゴミの分別と紙ごみ・ダンボール・スクラップのリサイクルを徹底すると共に、取り入れ部品の梱包資材削減を推進し廃棄物絶対量を削減する。
第一年度実績	ゴミの分別とリサイクルは計画通り実施したが、生産量の増加に伴い絶対量は増加しているので、今後は絶対量とあわせ原単位での廃棄物削減に取り組む。
第二年度実績	
第三年度実績	

13 実施状況等に対する自己評価

省エネ法・IS014001を念頭に各種対策を推進した結果、目標とした原単位での削減率で3工場中1工場は第一年度目標に若干届かなかったものの、2工場は大幅に上回る形で目標達成する事が出来た。特に工場では、設備更新・改造による消費エネルギー削減も実施したが、既存設備・ラインの稼働方式・時間の見直し等の管理面での対策や、照明設備の削減などを重点的に実施した事による効果が大きく、消費エネルギーと温室効果ガスの排出原単位削減の目標達成に貢献した。

地球温暖化対策実施状況報告書

1 事業所等の概要

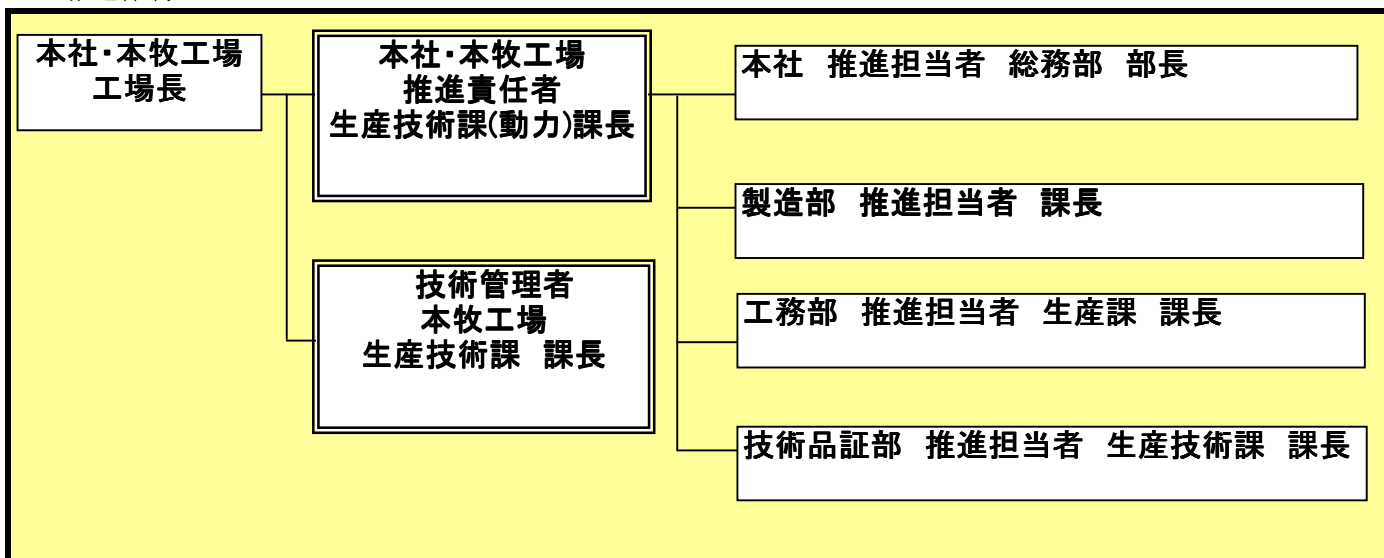
事業所等の名称	高田工業株式会社 本社・本牧工場				
事業所等の所在地	横浜市中区豊浦町2番地3				
事業所等の建物管理、エネルギー管理に関する状況等	延床面積	33,994	m ²	原油換算エネルギー使用量	2,578 k l
	事業所等の区分	工場		所有形態	所有（オーナー）
	エネルギー管理権原	全て有り		使用形態	全て使用

2 温室効果ガスの排出の抑制等を図るための基本方針

ISO14001に準じる環境経営により省資源、省エネルギーと地球温暖化防止に重点を置き、エネルギー使用量の実態把握、削減目標の設定を実施し技術的・経済的に可能な範囲で継続的改善に努める。

- ①更新の対象となる主要なエネルギー使用設備：ポンプ、ファン
- ②上記設備を選択した理由：台数も多く稼働時間が長いので更新や制御負荷により削減効果大きい。
- ③設備更新スケジュール：平成22年～24年で詳細は個別計画。

3 推進体制



4 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況

基準年度 (平成21年度)	基準排出量	4,515	t-CO ₂			基準原単位	392.00	t-CO ₂ /	千台	
目標年度 (平成24年度)	目標排出量	5,237	t-CO ₂	削減率	(16.0)	%	目標原単位	380.24	t-CO ₂ /	千台
								削減率	3.0	%
排出の抑制に係る目標の設定の考え方	エネルギーの使用量は生産台数と密接な関係にあることから、千台当りの排出量を原単位におき、省エネ法に於けるエネルギー使用量削減目標である1%/年に準じ平成24年度温室効果ガスの排出抑制目標を原単位の平成21年度比3.0%削減とした。									
事業者全体としての目標等										
第一年度 (平成22年度)	排出量	4,835	t-CO ₂	削減率	(7.1)	%	排出原単位	364.63	t-CO ₂ /	千台
								削減率	6.9	%
目標等の達成状況及び説明	基準年に対し生産台数が(15)%増加した為、温室効果ガス総排出量は(7.1)%増加したが、設備稼働の無駄を排除し設備の効率化対策（インバータ化他）等により排出原単位である生産千台あたりの温室効果ガスの排出量削減率は6.9%を達成。 【主な削減項目】●塗装ブース排気ファンのインバータ化 ●スポット溶接用冷却水循環ポンプの集約化による台数削減(3台→1台)。									
第二年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	100.0	%	排出原単位		t-CO ₂ /	
								削減率	100.0	%
目標等の達成状況及び説明										
第三年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	100.0	%	排出原単位		t-CO ₂ /	
								削減率	100.0	%
目標等の達成状況及び説明										
計画期間全体の排出状況に関する説明										

地球温暖化対策実施状況報告書

1 事業所等の概要

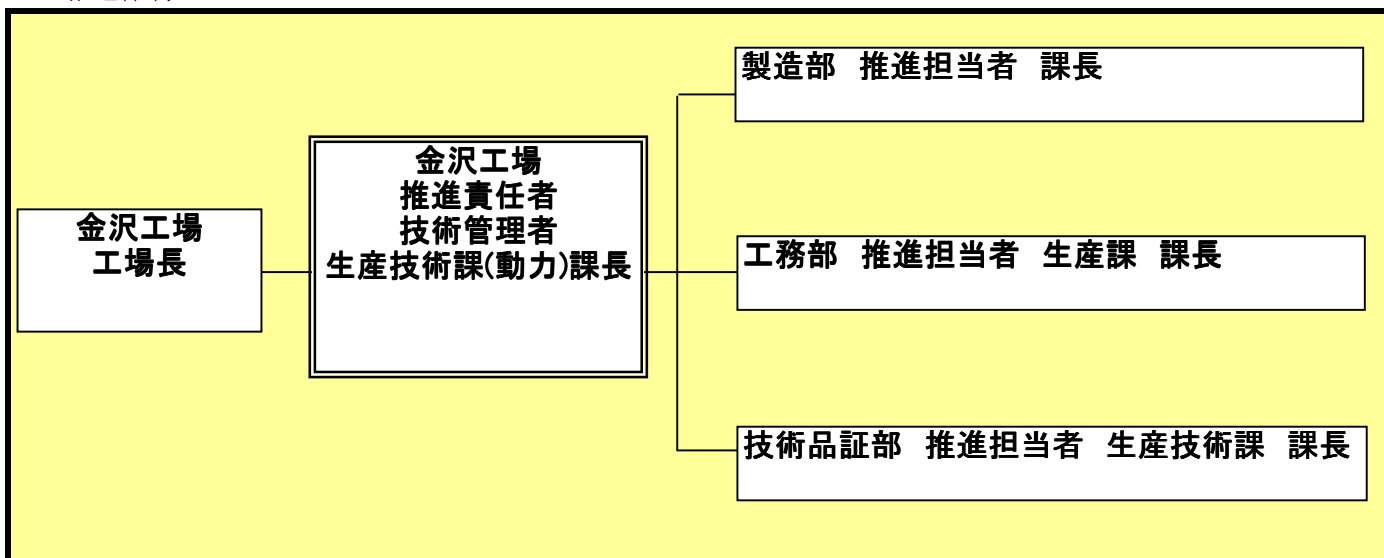
事業所等の名称	高田工業株式会社 金沢工場				
事業所等の所在地	横浜市金沢区幸浦1丁目10番地				
事業所等の建物管理、エネルギー管理に関する状況等	延床面積	24,915	m ²	原油換算エネルギー使用量	2,221 k l
	事業所等の区分	工場		所有形態	所有（オーナー）
	エネルギー管理権原	全て有り		使用形態	全て使用

2 温室効果ガスの排出の抑制等を図るための基本方針

ISO14001に準じる環境経営により省資源、省エネルギーと地球温暖化防止に重点を置き、エネルギー使用量の実態把握、削減目標の設定を実施し技術的・経済的に可能な範囲で継続的改善に努める。

- ①更新の対象となる主要なエネルギー使用設備：ポンプ、ファン
- ②上記設備を選択した理由：台数も多く稼働時間が長いので更新や制御付加により削減効果が大きい。
- ③設備更新スケジュール：平成22年～24年で詳細は個別計画。

3 推進体制



4 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況

基準年度 (平成21年度)	基準排出量	4,155	t-CO ₂			基準原単位	523.04	t-CO ₂ /	十億円	
目標年度 (平成24年度)	目標排出量	4,030	t-CO ₂	削減率	3.0	%	目標原単位	507.35	t-CO ₂ /	十億円
						削減率	3.0	%		
排出の抑制に係る目標の設定の考え方	エネルギーの使用量は売上げと密接な関係にあることから、売上げ十億円当りの排出量を原単位におき、省エネ法に於けるエネルギー使用量削減目標である1%/年に準じ平成24年度温室効果ガスの排出抑制目標を原単位の平成21年度比3.0%削減とした。									
事業者全体としての目標等										
第一年度 (平成22年度)	排出量	3,838	t-CO ₂	削減率	7.6	%	排出原単位	540.76	t-CO ₂ /	十億円
目標等の達成状況及び説明							削減率	(3.4)	%	
	排出量が減少しているのは生産量の減産の為であり、生産形態が小ロットとなり生産効率が悪化してランニングコストを下げられなかった事により原単位である売上げが減少した。第二年度への方策として原単位の減少に左右されない様にエネルギー使用量自体の更なる削減対策を確実に実施していく。【主な削減策】●塗料循環ポンプの稼動時間削減 ●塗装工場循環ポンプのインバータ化 ●ボイラー運転時間の削減 等。									
第二年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	100.0	%	排出原単位		t-CO ₂ /	
目標等の達成状況及び説明							削減率	100.0	%	
第三年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	100.0	%	排出原単位		t-CO ₂ /	
目標等の達成状況及び説明							削減率	100.0	%	
計画期間全体の排出状況に関する説明										

地球温暖化対策実施状況報告書

1 事業所等の概要

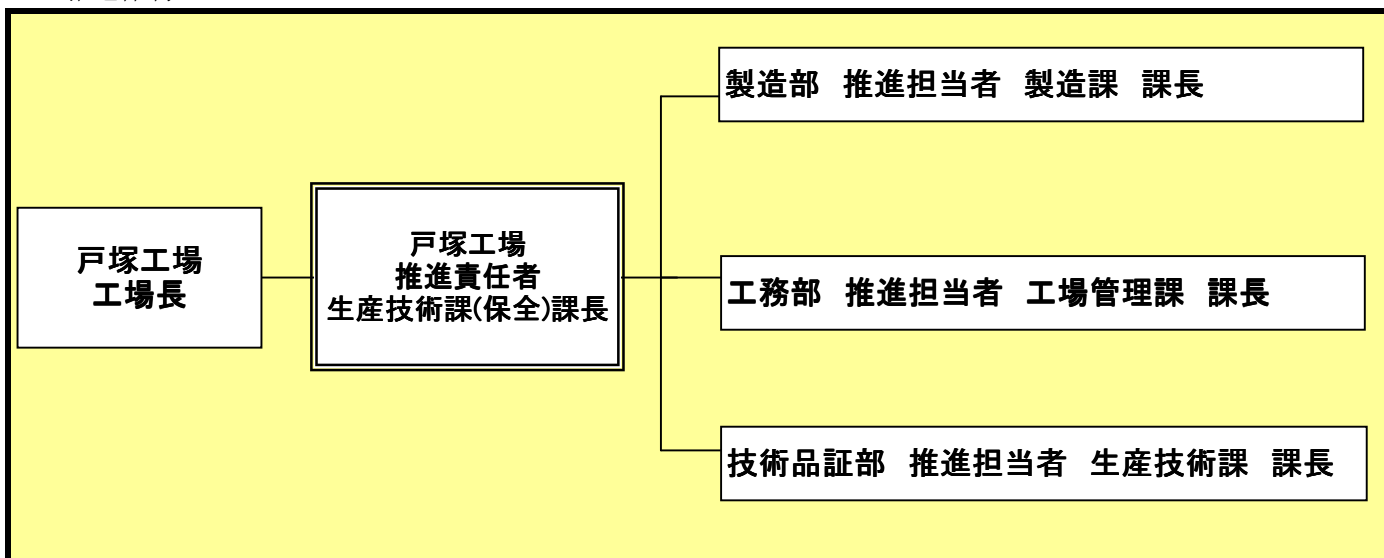
事業所等の名称	高田工業株式会社 戸塚工場				
事業所等の所在地	横浜市戸塚区深谷町1213				
事業所等の建物管理、エネルギー管理に関する状況等	延床面積	22,120	m ²	原油換算エネルギー使用量	1,197 kl
	事業所等の区分	工場		所有形態	所有（オーナー）
	エネルギー管理権原	全て有り		使用形態	全て使用

2 温室効果ガスの排出の抑制等を図るための基本方針

ISO14001に準じる環境経営により省資源、省エネルギーと地球温暖化防止に重点を置き、エネルギー使用量の実態把握、削減目標の設定を実施し技術的・経済的に可能な範囲で継続的改善に努める。

- ①更新の対象となる主要なエネルギー使用設備：溶接電源
- ②上記設備を選択した理由：使用台数が多く稼働負荷が高いことから省エネ回路採用による削減効果が見込める
- ③設備更新スケジュール：平成22年～24年で詳細は個別計画

3 推進体制



4 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況

基準年度 (平成21年度)	基準排出量	1,878	t-CO ₂			基準原単位	405.88	t-CO ₂ /	千台	
目標年度 (平成24年度)	目標排出量		t-CO ₂	削減率	%	目標原単位		t-CO ₂ /	千台	
							削減率		%	
排出の抑制に係る目標の設定の考え方	エネルギーの使用量は生産台数と密接な関係にあることから、千台当りの排出量を原単位におき、省エネ法に於けるエネルギー使用量削減目標である1%/年に準じ平成24年度温室効果ガスの排出抑制目標を原単位の平成21年度比3.0%削減とした。									
事業者全体としての目標等										
第一年度 (平成22年度)	排出量	2,075	t-CO ₂	削減率	(10.5)	%	排出原単位	346.42	t-CO ₂ /	千台
							削減率	14.6	%	
目標等の達成状況及び説明	基準年に対し生産台数が(34.9)%増加した為、排出量総量は(10.5)%増加となったが、対象年度において従業員に対する省エネ啓発の推進及び種々の削減策の実施により、排出原単位である千台当り温室効果ガス排出量の削減率は14.6%を達成。 【主な削減項目】●職場統合による休憩所数削減 ●プレスブレーキ及び溶接電源を省エネタイプへ更新 ●不要照明の管理強化 等。									
第二年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	100.0	%	排出原単位		t-CO ₂ /	
							削減率	100.0	%	
目標等の達成状況及び説明										
第三年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	100.0	%	排出原単位		t-CO ₂ /	
							削減率	100.0	%	
目標等の達成状況及び説明										
計画期間全体の排出状況に関する説明										